

医薬品副作用被害救済制度の研修(制度説明)に 関するアンケート調査集計結果

健康被害救済部

調査の概要

【調査目的】

救済制度の認知率の把握、救済制度への意識調査、今後の講演内容の改善に向けた意見等の聴取を目的として実施

【調査対象】

PMDAのHPで公開している医薬品副作用被害救済制度等に関するeラーニング講座※における研修受講者

※救済制度創設の背景、制度の仕組み、請求から決定・給付までの流れ、請求時の必要書類、事例紹介などの情報を組み入れたeラーニング

【調査方法】

研修受講者に対してeラーニング研修完了直後に画面上のアンケートへの回答を依頼

【回収状況】

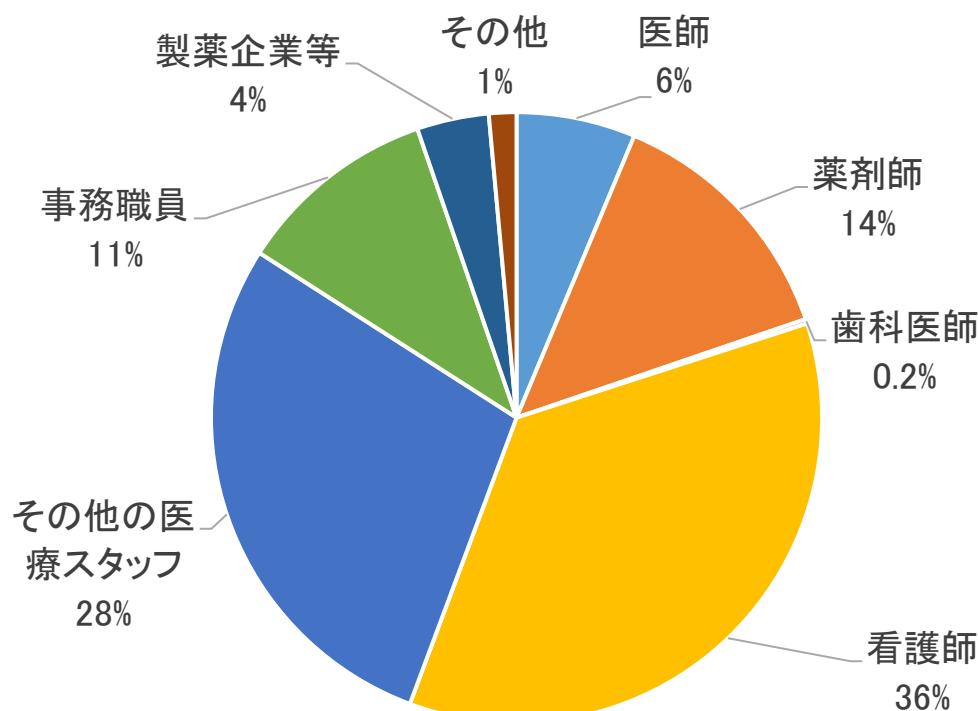
令和3年4月から翌年3月にかけてeラーニング研修受講者へ回答を依頼した結果、2,904人が回答

【eラーニング調査】アンケート集計結果

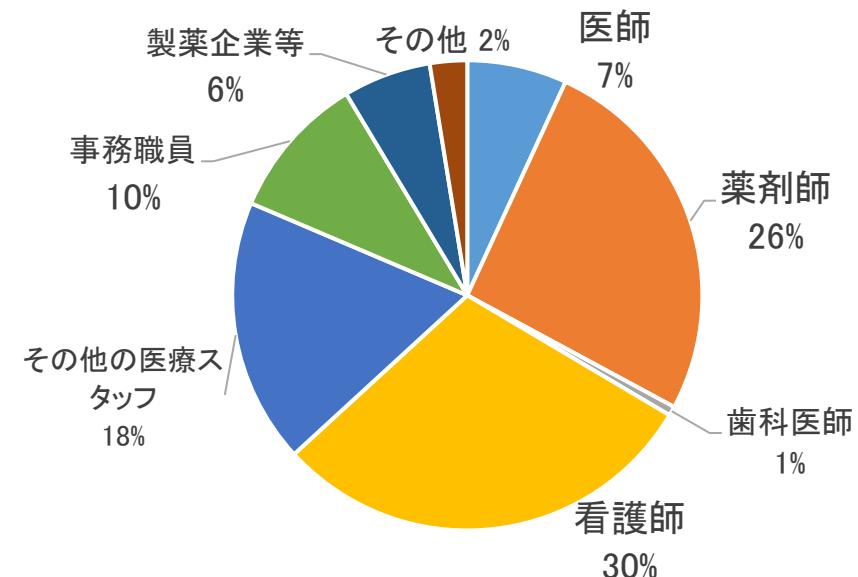
1. あなたの職種をお答えください

	医師	薬剤師	歯科医師	看護師	その他の医療スタッフ	事務職員	製薬企業等	その他	合計
令和3年度	182	389	7	1,030	820	308	110	58	2,904
令和2年度	75	284	7	324	199	109	66	28	1,092

【令和3年度】



【令和2年度】

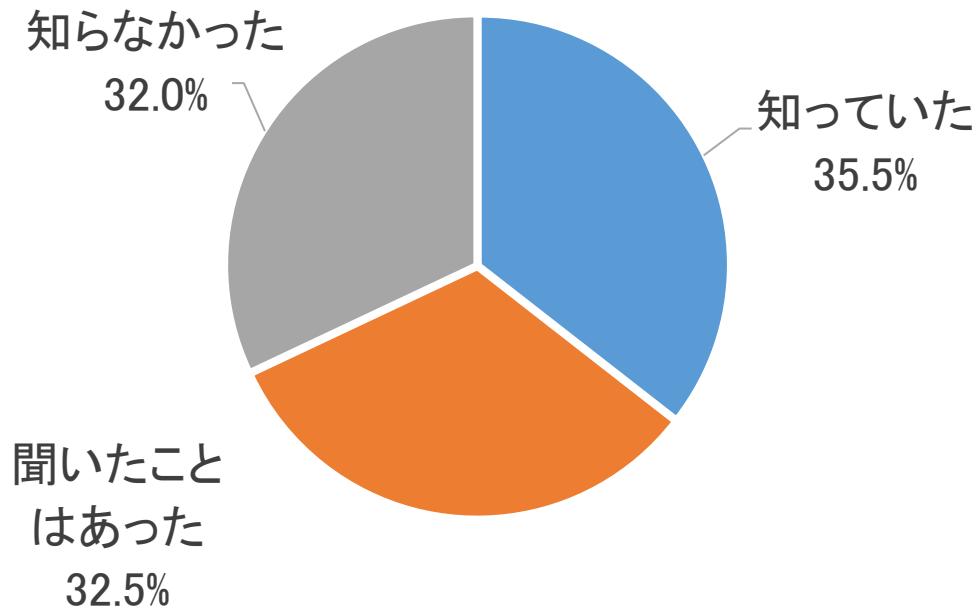


【eラーニング調査】アンケート集計結果

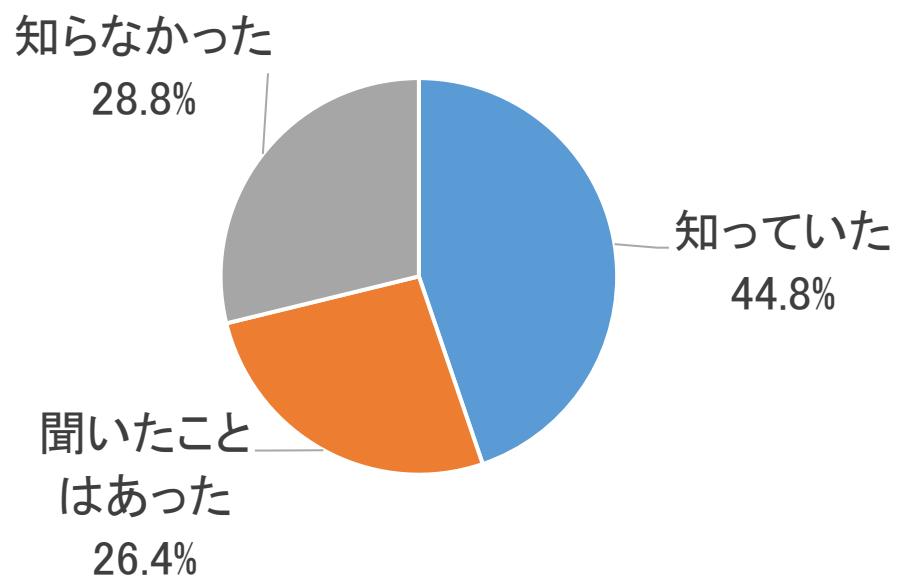
2. 今回の受講の前から救済制度をご存じでしたか（全体）

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	未回答	合計
令和3年度	1,027	938	925	14	2,904
令和2年度	485	286	312	9	1,092

【令和3年度】



【令和2年度】

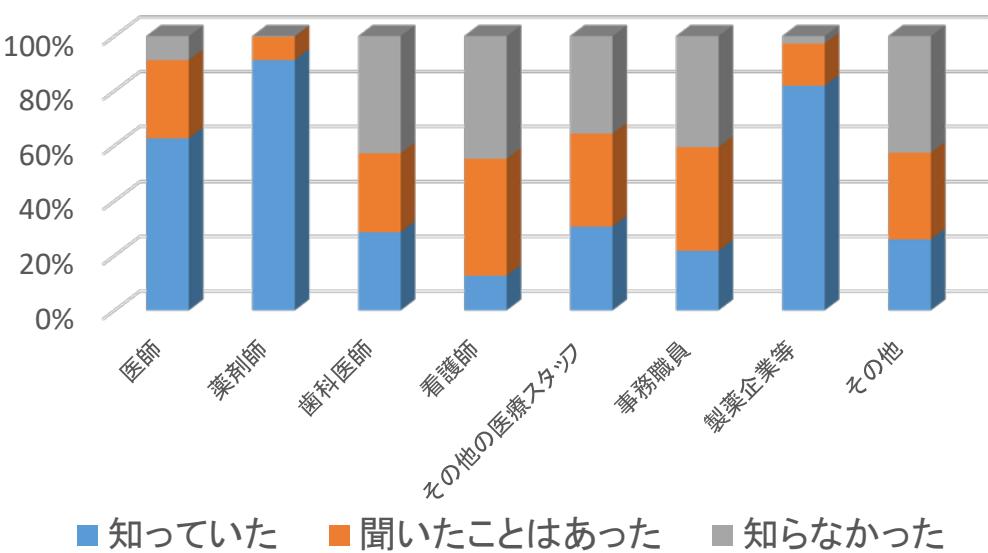


【eラーニング調査】アンケート集計結果

2. 今回の受講の前から救済制度をご存じでしたか（職種別）

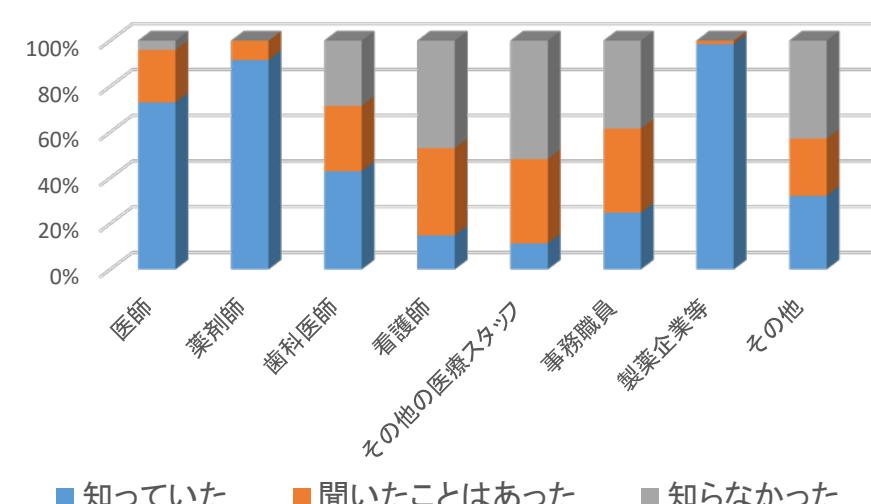
【令和3年度】

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかつた	合計
医師	114 (62.6%)	52 (28.5%)	16 (8.8%)	182
薬剤師	355 (91.3%)	33 (8.5%)	1 (0.2%)	389
歯科医師	2 (28.6%)	2 (28.6%)	3 (42.8%)	7
看護師	130 (12.6%)	437 (42.4%)	461 (44.7%)	1,030
その他の医療スタッフ	247 (30.1%)	273 (33.3%)	288 (35.1%)	820
事務職員	67 (21.7%)	116 (37.4%)	125 (40.6%)	308
製薬企業等	90 (81.8%)	17 (15.5%)	3 (2.7%)	110
その他	14 (24.1%)	17 (29.3%)	23 (39.7%)	58



【令和2年度】

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかつた	合計
医師	54 (73.0%)	17 (23.0%)	3 (4.1%)	75
薬剤師	257 (91.5%)	24 (8.5%)	0	284
歯科医師	3 (42.9%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	7
看護師	48 (14.9%)	123 (38.1%)	152 (47.1%)	324
その他の医療スタッフ	22 (11.3%)	72 (36.9%)	101 (51.8%)	199
事務職員	27 (24.8%)	40 (36.7%)	42 (38.5%)	109
製薬企業等	65 (98.5%)	1 (1.5%)	0	66
その他	9 (32.1%)	7 (25.0%)	12 (42.9%)	28



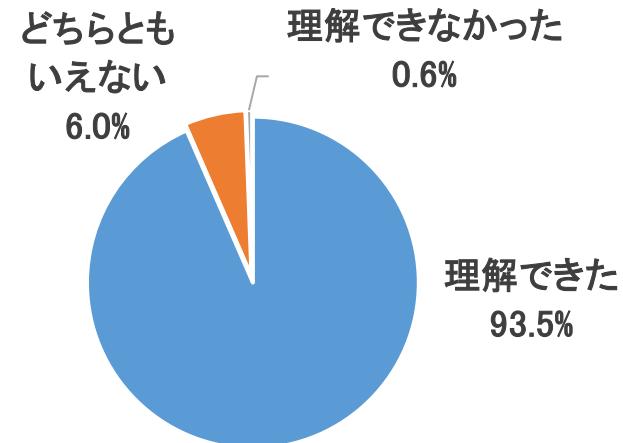
■ 知っていた ■ 聞いたことはあった ■ 知らなかつた

【eラーニング調査】アンケート集計結果

3. 今回の受講で救済制度の内容を理解していただけましたか（全体）

【令和3年度】

	理解できた	どちらともいえない	理解できなかつた	未回答	合計
令和3年度	2,701	172	17	14	2,904
令和2年度	1,030	51	7	4	1,092

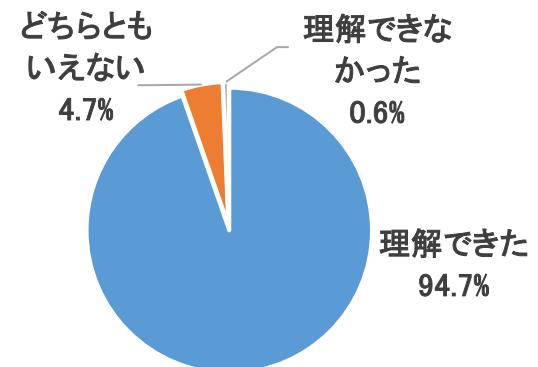


<どちらともいえない・理解できなかつた理由>

(自由記載、主なもの)

- 内容が難しく何度も学習する必要があると感じたため
- 患者様に説明できるほど理解できなかつたため
- 実際に事例が発生しないと、一連の流れがわかりづらい印象のため
- 必要な書類がよく理解できなつた
- 制度については理解出来たが、適応されないケースなどの細かい部分には理解しきれてないところがあるため
- 対象か対象外かの判断が難しい

【令和2年度】

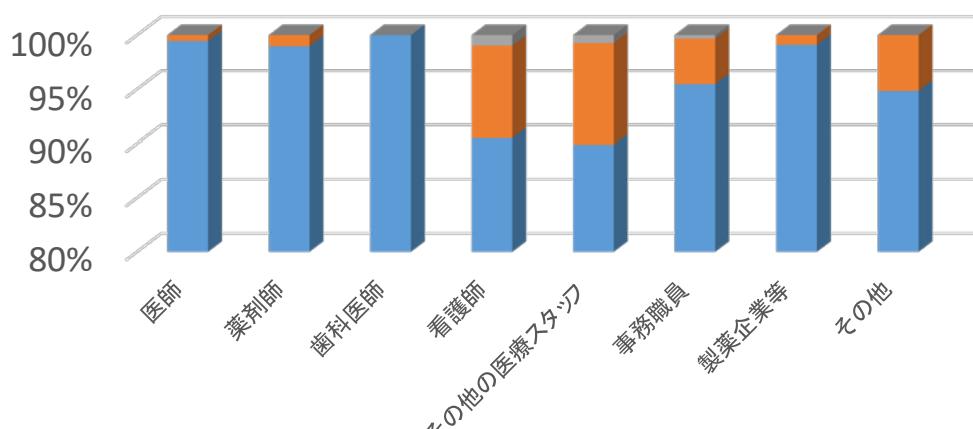


【eラーニング調査】アンケート集計結果

3. 今回の受講で救済制度の内容を理解していただけましたか（職種別）

【令和3年度】

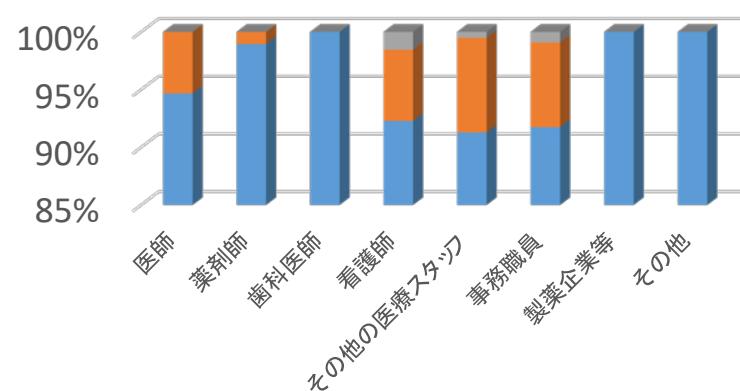
	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計
医師	181 (99.5%)	1 (0.5%)	0 (0%)	182
薬剤師	385 (99%)	4 (1%)	0 (0%)	389
歯科医師	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
看護師	932 (90.5%)	88 (8.5%)	10 (1%)	1,030
その他の医療スタッフ	737 (89.9%)	77 (9.4%)	6 (0.7%)	820
事務職員	294 (95.5%)	13 (%)	1 (0.3%)	308
製薬企業等	109 (99%)	1 (1%)	0 (0%)	110
その他	55 (94.8%)	3 (5.2%)	0 (0%)	58



■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ 理解できなかった

【令和2年度】

	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	合計
医師	71 (94.7%)	4 (5.3%)	0 (0%)	75
薬剤師	281 (98.9%)	3 (1.1%)	0 (0%)	284
歯科医師	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
看護師	299 (92.3%)	20 (6.2%)	5 (1.5%)	324
その他の医療スタッフ	178 (91.3%)	16 (8.2%)	1 (0.5%)	199
事務職員	100 (91.7%)	8 (7.3%)	1 (0.9%)	109
製薬企業等	66 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	66
その他	28 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	28



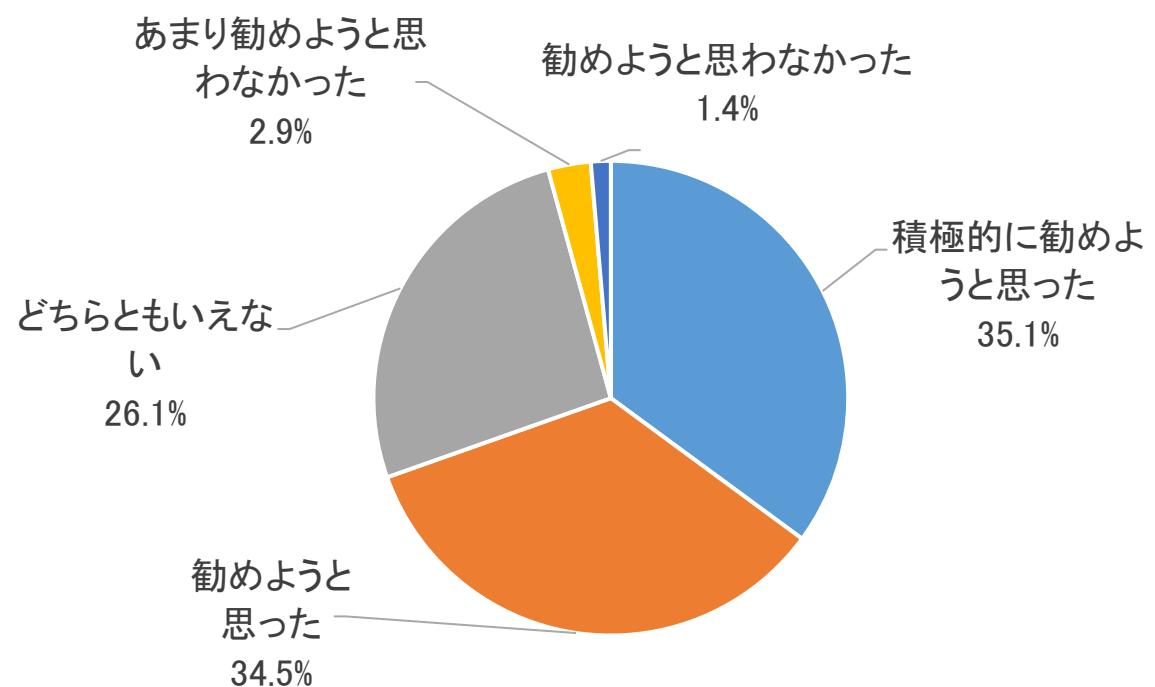
■ 理解できた ■ どちらともいえない ■ 理解できなかった

【eラーニング調査】アンケート集計結果

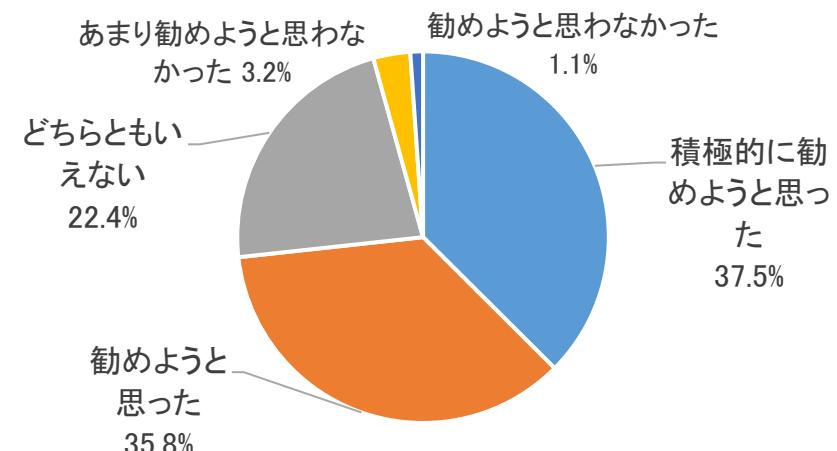
4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたか（全体）

	積極的に勧めようと思った	勧めようとと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかった	勧めようと思わなかった	未回答	合計
令和3年度	1,012	995	754	84	39	20	2,904
令和2年度	408	390	244	35	12	3	1,092

【令和3年度】



【令和2年度】



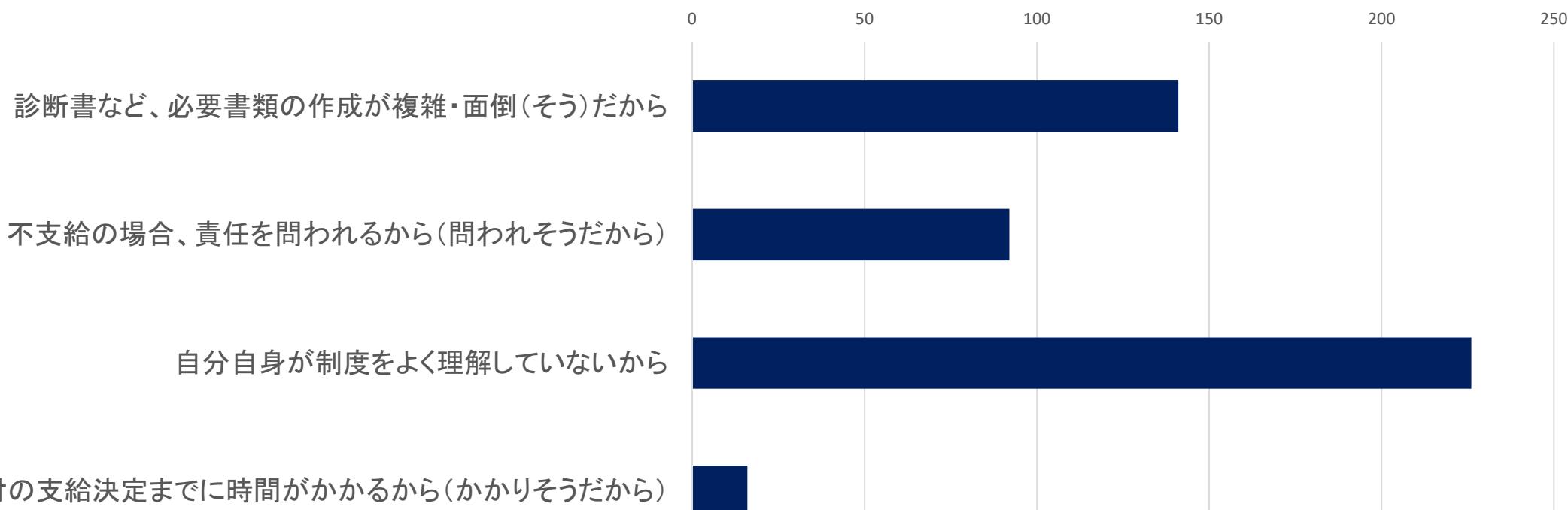
【eラーニング調査】アンケート集計結果（令和3年4月～令和4年3月）

4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたか（全体）

「どちらともいえない」、「あまり勧めようと思わなかった」、「勧めようと思わなかった」を選んだ理由（複数回答可）（n=877）

【 】・前年度における回答

診断書など、必要書類の作成が複雑・面倒(そう)だから	不支給の場合、責任を問われるから(問われそうだから)	自分自身が制度をよく理解していないから	給付の支給決定までに時間がかかるから(かかりそうだから)	その他	無回答	合計
141 (16.1%) 【16.8%】	92 (10.5%) 【17.2%】	226 (25.8%) 【30.1%】	16 (1.8%) 【8.2%】	84	334	893

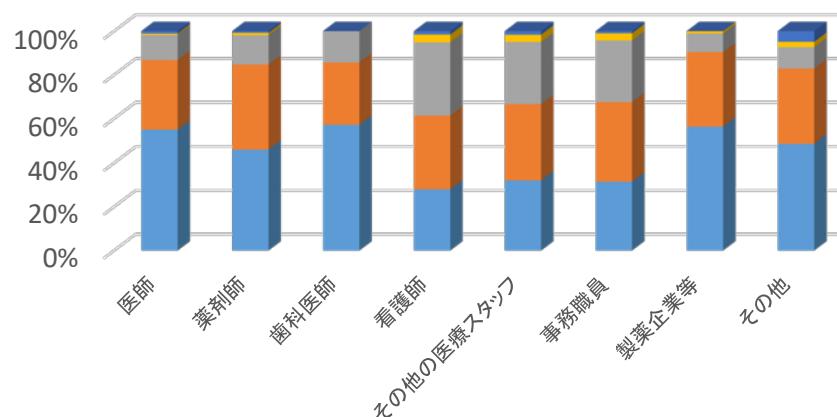


【eラーニング調査】アンケート集計結果

4. eラーニングを受講して、副作用に遭われた患者さんに制度利用を勧めようと思いましたか（職種別）

【令和3年度】

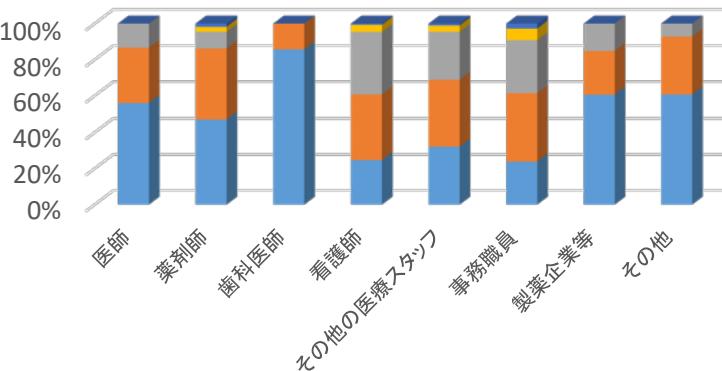
	積極的に勧めようと思った	勧めようと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかつた	勧めようと思わなかつた	合計
医師	100 (54.9%)	58 (31.9%)	21 (11.5%)	1 (0.5%)	2 (1.1%)	182
薬剤師	179 (46%)	150 (38.6%)	52 (13.4%)	4 (1%)	3 (0.8%)	389
歯科医師	4 (57.1%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	7
看護師	288 (28%)	344 (33.4%)	344 (33.4%)	37 (3.6%)	16 (1.6%)	1,030
その他の医療スタッフ	259 (31.6%)	279 (34%)	229 (27.9%)	27 (3.3%)	13 (1.6%)	820
事務職員	96 (31.2%)	110 (35.7%)	86 (27.9%)	10 (3.2%)	3 (1%)	308
製薬企業等	53 (48.2%)	32 (29.1%)	8 (7.3%)	1 (0.9%)	0 (0%)	110
その他	20 (34.5%)	14 (24.1%)	4 (6.9%)	1 (1.7%)	2 (3.4%)	58



- 積極的に勧めようと思った
- 勧めようと思った
- どちらともいえない
- あまり勧めようと思わなかつた
- 勧めようと思わなかつた

【令和2年度】

	積極的に勧めようと思った	勧めようと思った	どちらともいえない	あまり勧めようと思わなかつた	勧めようと思わなかつた	合計
医師	42 (56.0%)	23 (30.7%)	10 (13.3%)	0 (0%)	0 (0%)	75
薬剤師	134 (47.2%)	111 (39.1%)	26 (9.2%)	8 (2.8%)	5 (1.8%)	284
歯科医師	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
看護師	80 (24.7%)	117 (36.1%)	112 (34.6%)	13 (4.0%)	2 (0.6%)	324
その他の医療スタッフ	63 (32.1%)	72 (36.7%)	52 (26.5%)	7 (3.6%)	2 (1.0%)	199
事務職員	26 (23.9%)	41 (37.6%)	32 (29.4%)	7 (6.4%)	3 (2.8%)	109
製薬企業等	40 (60.6%)	16 (24.2%)	10 (15.2%)	0 (0%)	0 (0%)	66
その他	17 (60.7%)	9 (32.1%)	2 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	28



- 積極的に勧めようと思った
- 勧めようと思った
- どちらともいえない
- あまり勧めようと思わなかつた
- 勧めようと思わなかつた

【eラーニング調査】アンケート集計結果（令和3年4月～令和4年3月）

5. ご意見、ご要望があれば、何でも結構ですので記入してください

[医薬品副作用被害救済制度についての意見](抜粋)

- ・スタッフを集めての講習会開催が困難なため、各スタッフが個人で視聴する形式の講習会として今後も使用したいと思います。【薬剤師】
- ・適正使用とは認められない場合に、救済対象とならないケースが多いことを知らなかつたので、薬剤師としての役割の重要性を感じました。【薬剤師】
- ・迅速な救済を謳っているが、請求から判定、支給までにおおむねどれだけ時間がかかるのかについても知りたかった。【薬剤師】
- ・OTC薬を意識した解説をもっと加えて欲しい。請求案件で最も多い薬剤は解熱鎮痛剤。OTCで最も売れている薬だが、フォローできていない。【薬剤師】
- ・大変勉強になりました。改めて薬剤の適正使用を心がけたいと思います。【医師】
- ・一般の人にも知っていただくように工夫してほしいです。また、医師に対してはもう少し入り込んだ講習をお願いしたいです。【医師】
- ・SNSをもっと活用すべきだと思います。【MR】
- ・救済制度について分かりやすく、今後もアップデートしていただき継続お願ひいたします。【製薬会社社員】
- ・救済制度について認知度が低いと講義中にもありました、実際に近隣の調剤薬局やドラッグストアに救済制度のポスター掲示や冊子が置いていないことが認知度の低さがあるように思いました。大変、貴重な講義を聴講でき、患者様や知人に伝えていこうと感じました。【看護師】
- ・詳細はよく理解できましたが、薬剤に関する内容について看護師では難しく、医師の協力が必要だと思いました。【看護師】
- ・救済制度は患者さんにとって非常に大切な制度であるにも関わらず、認知度が低いことを認識しました。今後も色々な情報を調べつつ、周囲の人に情報を発信していくける薬剤師になりたいと思います。【薬学部生】
- ・副作用被害にあわれた方々の事を思うと、この制度の重要性を感じました。医薬品の適正利用については医療従事者がチームで情報を共有し、未然に事故を防ぐことが大事だと思いました。対象患者さんを支援する機会があれば活用したい。【MSW】